

ろうさい ニュース

平成 31 年

1 月号

第 413 号

■新年のごあいさつ

病院長 鈴木 茂彦

新年あけましておめでとうございます。

昨年 4 月に着任してまいりましてから、はや 9 か月過ぎましたが、この間、皆様には大変お世話になりましたこと感謝申し上げます。また本年もよろしくお願い申し上げます、

着任時に、本院の基本方針である「地域医療に貢献し、救急医療の充実を図ること」を最重点において運営を引き継いでいくことを決めました。有井前院長が特に力を注いでいました救急医療に関しては、昨年 4 月以降も受け入れ件数、受け入れ率共に高水準を維持しております。地域医療に関しましても最大限に貢献すべく取り組んでいますが、地域包括ケア病棟は現状では十分活用されているとは申せません。在宅療養されている患者さんのレスパイト入院も積極的に受け入れますので該当患者がございましたらご紹介ください。なお地域の診療所の先生方において先日行いましたアンケート調査ではご回答いただいた先生方には総じていい評価をいただいておりますが、辛口の忌憚のない意見もご遠慮なくお寄せください。改善すべき点は改善し、地域医療にさらに貢献したいと存じます。

もう一つの運営方針の柱は各診療科が特色のある診療を行い、浜松労災病院の意義、使命をアピールすることです。そのために各診療科に具体的な特色のある診療内容を打ち出すように指示しており、それぞれの内容は昨年 5 月以降のろうさいニュースで順次ご紹介させていただいております。私も皮膚の再生治療につきまして 7 月号で紹介いたしました。その後 8 月に静岡新聞で大きく取り上げていただきました。



本年は各診療科の特色ある診療の一層の充実を目指したいと思います。その中で特に、診療科の垣根を超えて脳から心臓、胸腹部、下肢までの血管治療を診療の柱に掲げたいと思っています。そのために従来から存在する勤労者脳・循環器センターを「**心臓血管センター**」に改組いたします。

この新しい**心臓血管センター**設置に合わせて、当院で治療を行っていただいている彦根市民病院循環器内科主任部長綿貫正人先生に不整脈治療の経皮的カテーテル心筋焼却術（カテーテルアブレーション）に関する解説記事の執筆を依頼しました。綿貫先生は先進的なカテーテルアブレーション治療の第一人者です。今月号では第1回目の原稿を掲載し、今後も非定期で随時掲載予定です。

■急増している心房細動に対するカテーテルアブレーション治療

彦根市民病院 循環器内科主任部長

綿貫 正人 先生

現在、循環器内科の治療現場で大きなうねりが押し寄せています。

従来、循環器内科のカテーテル治療と言えば、冠動脈や下肢動脈の血管形成術が主であり、ごくごく少数の患者にカテーテルアブレーション治療が行われてきました。

症例の比率でいえば数十対一でしたが、カテーテルアブレーション治療が可能な病院では、軒並みにアブレーション症例が増加し、虚血症例数を凌駕する病院も散見されるようになってきました。

原因は心房細動に対するアブレーション数が激増しているためです。

本邦における頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーションの歴史は、平成とともに始まりました。平成元年に、日本で初めてカテーテルアブレーション治療が施行され、平成6年には保険償還が行われ全国に広まって行きました。

当初、治療対象となった不整脈は、上室性頻拍、心房粗動、心室頻拍でした。

心房細動に対しては、心臓血管外科で行われていた Maze 手術が9割の治癒率に達していた一方で、残念ながらカテーテルアブレーションによる Maze では、5割に届かない成功率でした。

そういう状況の中で、心房細動アブレーション治療による治癒率を、飛躍的に向上させることとなるエポックメイキングな知見の報告がなされました。

平成10年、心房細動を誘発するトリIGGERとなる期外収縮が、多くの症例で肺静脈内より認められるという論文が、ボルドー大学より発表されたのです。

当初、肺静脈内で発生する期外収縮を検索し、その部分をピンポイントでアブレーションする方法が採用されましたが治療は困難を極めました。

その後、コンピュータを使った3Dナビゲーションマッピングがイスラエルで開発され、カテーテル先端位置がコンピュータ内で可視化され記録できるようになると、肺静脈出口部に途切れのない連続したアブレーションラインが高率に作成できるようになりました。

肺静脈出口部を囲うようにアブレーションすることにより、心房細動を発生させる期外収縮を肺静脈内に閉じ込め、発作性心房細動の9割が治癒できるようになりました。

平成27年にはクライオアブレーションが認可されました。

肺静脈出口部を風船により閉塞し、風船をマイナス60度に冷却することにより、出口部周囲を一気にアブレーションするもので、全肺静脈の治療を12分で終了することができるようになり治療時間が大幅に短縮されました。

現在、日本には約90万人の心房細動患者が存在することが想定されており、カテーテルアブレーション治療により、患者のQOLの改善とともに、心原性脳梗塞の減少が期待されています。

第37回浜松EAST医療連携セミナーの開催について

平成31年1月31日(木)に、浜松EAST医療連携セミナーを下記のとおり開催いたします。今回のテーマは、「消化器領域の漢方治療～基本処方解説～」です。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日 時：平成31年1月31日(木)

19:30～20:45

場 所：浜松労災病院 6階 大会議室

テ ー マ：「消化器領域の漢方治療 ～基本処方解説～」

講 師：北里大学 東洋医学研究所 副所長 及川 哲郎 先生

座 長：浜松労災病院 総合内科 副部長 東辻 宏明 先生

特別講演の開催について

平成31年2月6日(水)に、京都大学医学部付属病院心臓血管外科の湊谷謙司教授をお招きして、特別講演を開催いたします。医療関係者の皆様のご参加をお待ちしております。

記

日 時：平成31年2月6日(水)

18:30～19:30

場 所：浜松労災病院 6階 大会議室

テ ー マ：「最近の心臓血管外科の話題」

演 者：京都大学医学部付属病院心臓血管外科

湊谷 謙司 教授

浜松EAST看護連携会の開催について

平成31年2月8日（金）に、浜松EAST看護連携会を下記のとおり開催いたします。今回のテーマは、「災害時のトリアージと当院の役割」です。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日 時：平成31年2月8日（金）
13：30～15：00
場 所：浜松労災病院 6階 大会議室
テ ー マ：「災害時のトリアージと当院の役割」
講 師：師長補佐会

休日乳がん検診の開催について

平成31年2月24日（日）に下記のとおり、休日乳がん検診を開催いたします。マンモグラフィの撮影は女性技師が行います。

記

日 時：平成31年2月24日（日） 8：00～12：00
内 容：マンモグラフィ撮影、視触診及び結果説明
費 用：浜松市発行の無料クーポン券を持参の方は無料
がん検診受診券ハガキを持参の方は一部負担金のみ
自費の方 5,940円（税込）

お申し込みは当院健康診断部053-462-1211（平日8：15～17：00）
へご連絡ください



独立行政法人 労働者健康安全機構

電話 053-411-0366

受付時間

浜松労災病院 地域医療連携室

fax 053-411-0315

月～金 8:15～18:00 土 8:15～12:00